

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	『個別最適な学び』と『協働的な学び』を両立させるアクティブラーニングプログラムの開発：簿記・会計の WEB 学習支援システムの活用				
研究組織	代 表 者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	上野 雄史
	研究分担者	所属・職名	(株) Funda	氏名	福代 和也
		所属・職名	パルマ大学・教授	氏名	アンドレア・チローニ
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	上野 雄史

講演題目
基礎学習と応用・発展の橋渡し：会計教育における WEB 学習支援の有効性と課題
研究の目的、成果及び今後の展望
どの大学においても、初学者に基礎を習得させることは共通の課題である。基礎教育の習得は、学習者に一定の忍耐を強いる。数学で言えば、九九を含む計算問題、基本的な公理の理解、証明の学習などが該当し、会計学では簿記がその役割を担う。基礎学力の定義については別途議論が必要であるが（例えば金子 2007）、各学問領域には最低限身につけるべき「基礎」が存在する。会計学の場合、それが「簿記」の習得にあたる。 基礎は学習の基盤であり、発展・応用へとつなげる上でも不可欠である。しかし、特に初学者は基礎を軽視し、応用・発展へと進みたがる傾向が強い。近年では、基礎的な知識や処理の多くを AI が代替するようになり、この傾向はより顕著になっている。基礎の難しさは、一度習得しても継続的な反復練習を怠れば、スキルが低下し、場合によっては失われてしまう点にある。そのため、基礎を無理に習得させた後に応用・発展へと進めても、基礎力が低下した状態で学ぶことになりがちである。 本研究では、この課題を踏まえ、基礎教育を WEB 学習支援により補完し、基礎（復習）と並行して応用・発展を講義内で行う設計を採用した。WEB 学習支援を導入したのは、学習者ごとに基礎の定着度に差があるためである。一方、授業は一定の進捗で進めざるを得ず、一部の学生は基礎を十分に習得しないまま応用・発展に取り組むことを余儀なくされる。このため、会計学総論（1 年生配当・後期必修）では、前期の簿記論の基礎力に応じて学習者を分類し、毎回小テストを実施した。同時に、応用・発展領域として、企業の財務諸表の読み取りと分析を段階的に課題として課した。課題では、教員が適宜アドバイスをを行い、「どの段階でどのデータを取りまとめるべきか」「分析に必要な要件や考察は何か」といった点を徐々に提示した。 その結果、2024 年度のテスト結果は、2023 年度と比較して明確な改善が見られた。2023 年度では、30 点満点のテストで 21 点以上の学生は 38.5%にとどまったが、2024 年度は 6 割を超えた。一方、課題も残った。前期の簿記論の理解度が低い学生ほど相対的に点数が低く、また、講義当初から会計学への関心が高い学生の方が高得点を取る傾向があった。講義内での意識変化を大きく促すには至らず、この点は今後の課題としたい。